

正校  
地方落穂集

十三十四

73

6424

7



73  
6424  
7

櫻井藏書

校正地方落穂集卷之十三 目錄

目錄

- 一 轉切支丹血脈續の事
- 一 切支丹類族屈致方の事
- 一 京都町奉行所より有之帳面字の事
- 一 類族より出べき者の事
- 一 本人本人同然伺書の事
- 一 宗門改の節旗本より書上文言の事
- 一 同大名衆より書上文言の事
- 一 伺證文案詞の事
- 一 取置證文案詞の事

故櫻井理行氏  
大正十四年  
十二月廿三日  
櫻井氏の蔵書  
寄贈

校正地方落穂集卷之十三 目錄

- 一切支丹類族病火届の事
- 一同出生届の事
- 轉切支丹類族出生届の事
- 享保年中切支丹一件書付の事
- 村方より差出を注進書の事
- 檢使手代へ取置寺院村役入證文の事
- 代官より切支丹奉行へ差出を注進書の事
- 享保十八年切支丹奉行用入へ閉合の事

校正地方落穂集卷之十三目錄畢

校正地方落穂集卷之十三

信陽 東條耕子蔵 校

○轉切支丹轉切支丹ノハ切支丹宗門トシテ佛法へ改宗しハ切支丹宗門トシテ血脉續きの事

一切支丹宗門之と耶蘇宗と云切支丹とい即ち國の名也此國古へ南蠻の

屬國より紅毛トシテ近き由故へ此切支丹を始として其外異國の船舶

白毛國へ航海するもの説ゆれを紅毛人之を注進を此功より由て紅毛の

皇國通商の免許を得る由あり此耶蘇宗門を天帝と尊信を共忠孝

の教あり儒を斥し佛を破し妖術を學び人心を惑を邪法あり因て

皇朝支那共嚴しき制禁あり然るも何時の頃より此宗門

皇國へ渡來して西國北國は蔓延し元龜天正の頃平信長殊に信せし由



と引替よるるてり

一類族病死

兩判の証文 但し二季届

是ハ檢便及び親類共差出せし注進書の趣と以て取置申付且那

寺より取置し證文と取り七月十一月二季届の節書判印判と出を

一變死

兩判の届但し當時の届無判ふ

是ハ類族變死の節ハ季細の証注進より其節無判あるが二季届の内

へ書入べし是ハ檢使差出あり

一出生

無判書付 二季届

是ハ注進の度毎元帳書入勿論覚書に記し置二季共裁入りてり

記し無判と之と出せ尤も紙の西の内一枚と消ハ目録の格と認

り二枚も入てある帳綴べし但し右元帳書入ると場所前後不

き格は返し置べし重ねて本帳認る節都合よし

一新嫁

右日断

是を本人并は本人同然の聲り嫁ありし者のところあり平人より切支

丹の聲或は嫁ホよあるが類族もるに由り届書出を多あり平人の事

と素人と書付多あり

一住居替

右日断

是ハ只今迄何國何村に罷居り処何くの儀に付何方へ罷越たり或ハ

奉公人あるが主人替りし証と書とあり

一歸居

右日断

是を右より及せるものより只今迄何方に罷在り処何村へ立戻り

ふと認め出を多あり

一 尺落 当時届兩判

是ハ注進申出し節吟味を為し其筋より口上書を取り兩判を届と  
出さず勿論此度お尋見當り次第申出へく旨堅く申付証文取置あり

一 死罪 同ひ及りて當時  
の届け兩判あり

是ハ罪科よりて刑は行はるゝとあれ共前方同ひ及りて死罪は行  
ひし後早速兩判より届をとり尤も本人本人同然ハ少し記も有り  
へま欲自然本人ハ死罪有之節ハ奉行所役人へ内意を閉合せし

一 出家 二季各判の届但し他所へ  
越節ハ前方之と伺ふ

是ハ何系何と申者出家は法名何と申を由二季届書入る但し他  
國へ羅越り行脚ふと出る届は節ハ前方之と伺ふあり

一 遁世 当時届兩判

是ハ尺落の類より少し輕き者多し其意味を以て吟味の書付と取べ  
し但し當時伺ふり然し其類ハ書判よりよし

一 養子 右内断

是ハ素人として養父母の系次第より類族を成りたりハ出生同然  
と心得てよし

一 義絶 二季兩判の届但し類族  
を離れ無判の届あり

是ハ仮令親子兄弟の縁を切ても元類族を成るハ其系を離るべ

一 離別 右内断

是ハ新縁の離別あるハ元の素人より成り類族を離る故兩判届但し  
離別は元類族より成るハ本系へ歸るると類族を離るべ  
よ依て無判の届あり

一他行 届又及び

是ハ仮令ハ神佛詣或ハ養生の爲入湯ふど断り立し後ハ閑届五ヶ月  
七ヶ月あるハ願又任せ奉行所へ届又及び但し長途ふどと年々  
越むハ二季の届と為あり

一不分明者病死 二季兩判届

是ハ系もふく且類族と斗とを決せざる不分明者と別紙認め奉  
行所へ差出とあり此者病死されハ兩判と届多あり但し且那寺証  
文ホの儀類族病死同然の事あり

右是迄ハ先年中の覚書とお例へハ

○京都町奉行所ノ有之帳面字ノ事

切支丹改覚書

一前々切支丹宗門の由と本人有之と於てハ何年以前何方と金議有

之ハ何年以前轉邪宗門の者より共切支丹と訴人仕ハ依て罪科  
免成在ハ取リ罷在ハ裁其訣委細書付申はる事

一右轉ハ前切支丹の者より有之只今迄ハ預差罷裁又何と面  
職仕罷在ハ裁其訣一人毎別委細書付申はる事

一寂前切支丹と轉申はる以前の子ハ男女共本人同然の儀ハ間  
本人の内書入申はる事轉ハ後の子ハ男女共類族の内書入申

けりぐくハ事

一前々切支丹轉ハ後且那寺有之ハ何宗と平生寺へ参詣仕ハ裁  
其寺へ付届常休仕ハ裁又珠数ホと持父母の忌日ふどハ寺へ参詣  
ハ裁持佛と持ハ香花と備ハ裁其趣且那寺と慥ハ吟味と遂又下人

ホと遣ツカひハ者ハ其下人ゲシ込念入チシイレセシ穿鑿ウツサク致チらズぐク事

切支丹キリシタンの儀ギハ申マせマ及ツ及ツ宗シウ旨シ疑ギハシ者者有有之之於於テテハ料レ所シハ代官ダイカン

私領シリウハ領主レウシユゲトク地頭ヂトウへ訴ウツクへ出デぐク勿論モチロン後ヤクよりより奉行ブツウへ早ハヤく申出マへク品シ

寄ヨリ此度キトはハ褒美ホウビ下カらズぐク其上ウヘ同類ドウルイよりより共トモ其科シカを免ユルしハ仇トクと

為ナらズ招仰ヤウブせマ付ツらズぐク若モしカ隱置カシマキ後キ日ヒはハ顯アらズぐク於於テテハ曲事キョウジなる

類族レイブツの者者忌掛イミカケらズ親類シニルイナラビ并ヒ智チ舅ヌ吟味インミ有有テ書付シヤフ申マらズぐク此外コノソトハ

書付シヤフ及ツ及ツ尤モ諸親類シヨクシニルイナラビ亦モ他國タノクニへ放チし遣ツカしハ儀ギ無用ムヨウ多タくク但タし

赤アカくクハハ叶オチハハ儀ギ有有之之於於テテハ切支丹キリシタン子孫シソンの款料クワンリョウ所シハ代官ダイカン私領シリウ

ハ地頭ヂトウへ申出マへク尤モ何年ナニトシ過スハハ其款切支丹クワンキリシタン奉行ブツウへ申達マし帳面チヤウメン

書直シヤウジツしハ存仕ソンジらズぐク事

一前マ切支丹キリシタン宗門シウモンの者者果ハテハハ死骸シカイハ塩詰シホツメはハ置切支丹チキリシタン奉行ブツウの差図サズ

次差ジサ又仕マシらズぐク事

一類族レイブツの者者果ハテハハ死骸シカイハ吟味インミと遂別トグバツ茶屋チャヤ之ノハ且ナ那寺ナナジヤより取置トリオキ其趣帳シユチヤウ

面オモ記シし毎年マシ七月シチゲツ十一月ジュウイチゲツ兩度レウダ切支丹キリシタン奉行ブツウへ差出サし帳面チヤウメンをヲ除ノせて申事マシ

右ミダの趣相改シユサウカの帳面チヤウメンに記シし切支丹キリシタン奉行ブツウへ差出サし帳面チヤウメンとシテ帳面チヤウメン奥書ウケガキホの儀ギ

奉行ブツウ中ナカよりお達オツクせマらズぐク前マより切支丹キリシタン宗門シウモン多タ之方カタへも心得ココロエの為タメめ

お觸オスハハ間マ其意シ得エらズぐク事

貞享四年卯六月

一宗門改證シウモンカシテイ又例年マシ七月シチゲツより十一月ジュウイチゲツ限差カギサ出デらズぐク但タし延引エンシの款クワン

ハ十二月ジュウニゲツ迄マデも受取ウケトルなク年トシと越コへテハ受取ウケトル有アルべク事コト尤モ案文アンモン引合ヒキアの上受取ウヘウケトルなク事



一 本人本人同然病死伺を書判

一 取置証文書判印判

一 本人病死の節を塩詰り改し置番人ホハ附るゝ及り依菩提所の墓場ふ  
どよ依埋め置お伺事

一 本人類族に限らば不図他所へ罷越お果のり其処へ葬り本領へ引取  
ゝ及り依元也証文ハ本領より出し申さるべく事

一 父切支丹宗門不轉以前の子ハ男女共本人准レハ切支丹の子  
ハ出生の節子細有之行跡常あづる故不轉以前の子を以て本人同然

と依て忌掛り其外共本人准レ病死の節ハ即刻檢使差つゝハ死  
骸改め塩詰り改し取置の候伺の上差圖に任せ葬の本証文差出

節石届證文引替遣ハレ事

右ハ秋元但馬守へ伊勢守より書記進せしむ扣の抜書あり

○類族は出へき者の事

一 本人并本人同然の者より玄孫まで又伯父叔母甥姪従弟近類族は出  
る多し縁者ハ本人本人同然の者の尊姑近出る多し但し女ハ本人本人

同然より孫限り類族と離る勿論孫より末ハ女子の子類族と離る  
一 領内住居替新縁ハ領主より申付られし後無判の届二季よ之と出ぬ

べく又他國へ新縁住居替ホを前方より伺ひ差圖の上申付べき事  
一 類族死罪の時ハ刑せし後兩判の証文を以て當時届らるべく元也

前方断り及り依然し本人本人同然の者ハ格別たぐべし但し是も手  
延よ為し難き候り其時の品よとるべし

一 同葬の候ハ火土葬共記す及り依類族ハ何葬りとも勝手次第何事

の寺へ取置しと斗り記をべし

一類族一季居又ハ渡り奉公人ハ主人の名を帳面記さ其者の出替の

度毎断り及リ後令書出せし共帳面記を及リ後譜代又ハ長年

季トてハ主人の名帳面出せ也又百姓或ハ町人ハ版住極り節ハ二

季多判の届りりべし帳面引合の上居亦本住所あり是又張帛及む

一本人并又類族の旦那寺院号改めし即ハ二季多判の書付を以て届有

りべし附借家と居住の類族ハ家主名主への断り石月断

一妻平人夫本人同然の妻の父母ハ類族よ出る

一離別ハ仮令子共り共類族と離る男女共又同断但し是ハ平人の事也

一本人の妻平人を本人同然の子出生以後の離別是ハ其子本人同然よ

よ因て其子の類族よ離別の母も出る

一宗替又ハ旦那寺替の儀據ふき子細りか前方同の上差図と受べし  
一本人同然名替の儀無用なり若し據ふき子細りかお同差図の上  
書判の証文と出せし附類族名替の儀誤立してあれば領主同届の上  
申付二季よ多判の証文と出せし

○本人本人同然同書上の事

一本人本人同然病死 判の取替証文と出せし

一類族病死 二季の証文 一住居替 二季の書付

一変死 二判の証文当時届但し無判 一版居 当時届

一出生 二季の書付 一欠落 右月断

一新縁 右月断 一出家 二季の届無判但し他領

一死罪 当時届 二判 越えハ前方之と伺ふ

校三也 一 二 三



申上べくい其為仍て如件

年号月日

宛所兩名殿付

名判印  
名衆判

○宗門改の節大名衆より書上文言の事

一扎

一切支丹宗門前より悔念あり相改申し先年仰せ出されし法度の趣  
弥未守り私領中在り所より至迄穿鑿と遂家来下り追吟味致し  
不審成者坐あり事

古切支丹の者未々迄常々行跡疑はしき儀坐あり事  
領中在り所の家来の者下り又者至る迄此以後不審成者有之に於て  
ハ早く申達べくい以上

年号月日

宛所兩名殿付

名判

○伺證文案詞の事

何国何郡何村百姓轉切支丹誰忤父不縛以前生に於てハ本人同然当何  
月歳日何十何歳と病死致し依て即刻檢使差遣し死骸改め別  
条に坐あり之に依て塩誥及し置し差因次第仕るべし以上

年号月日

宛所

誰書判

○取置證文案詞の事

一前文伺證文案詞同し○塩誥を致しお伺の上差因に任せ且那寺何国何  
郡何村何宗何寺と土葬取置申し為其此の如く坐り以上

年号月日

宛所

右何也也端作ふし代官と拙者代官所何國何くと書ふ

○切支丹類族病死届の事

轉切支丹類族病死覚

一何國何郡何村轉切支丹類族誰曾孫此間除誰悴此間除当何月幾日何才と

病死致し且那寺何國何郡何村何宗何寺と取置申

一何國何郡何村轉切支丹誰娘同国同郡誰妻タレツマ当何月幾日何才と病死致

し右且那寺何村何寺と取置申

右の通類族何人病死致し何間何断りの為此の如く由坐以上

年号月日

誰判

誰判

宛所

○切支丹類族出生届の事

切支丹類族出生の覚

一何國何郡何村切支丹誰孫当何の何月幾日出生何と申住居宗音且那

寺父同前由坐以上

年号月日

誰無判

幾人イクリシと右の通り但但し多人數ありハハ書の方宜し

○轉切支丹類族出生届の事

覚

轉切支丹誰曾孫誰悴

誰

何宗何國何郡 當何月出生

此者居何宗 父母同然由坐

右の通類族何人出生致し間届の為此の如く坐以上

年号月日

宛所

誰無判

○享保年中社仰出書付の事

- 一類族の者只今迄の追放不成就へ共以後追放申付不苦事
  - 一離別又ハ養子の後ハ付類族と離れ者ハ二季ハ兩判の証文を以て相届へく事
  - 一變死病死罪欠落道世ハ二季無判の書付を以てお届る事
- 右の通り内後お心得る以上

申十一月

一切支丹本人同然の内出家ハ格別の間向後お果ハ節伺ハ塩詰及ソレ

土葬又成共火葬又成共勝手次第取置以て以後二季の届の節申向ら

- 一本入并本人同然の者出家の外ハ只今迄の通り塩詰及ソレ伺の上差
- 一類族の儀只今迄の通り替り替之事

戌五月

○村方より差出注進書の事

一何国何郡何村百姓本人同然誰当何月幾日何才て病死仕此者父誰

一何国何郡何村百姓て坐小切支丹宗門の由て何年何月幾日

一此代官何の誰格へお捕長等へ遣さぬ小切支丹宗門を縛し翌何

一年何月幾日奉行所格よてお戻され何月お成小切何年以前何の何

月幾日何才<sup>ハ</sup>て病死仕<sup>ハ</sup>り又付何方<sup>ニ</sup>奉行所<sup>ニ</sup>移へ仰せ遣<sup>ハ</sup>り且那寺<sup>ニ</sup>  
にて取置<sup>ル</sup>者<sup>ノ</sup>忤本人同然<sup>ノ</sup>者<sup>ニ</sup>坐<sup>ル</sup>故死骸<sup>ノ</sup>番人付置<sup>ル</sup>注進申上<sup>ル</sup>  
右誰<sup>レ</sup>宗<sup>ノ</sup>何<sup>ノ</sup>郡<sup>ノ</sup>何<sup>ノ</sup>村<sup>ノ</sup>何<sup>ノ</sup>寺<sup>ノ</sup>且<sup>レ</sup>那<sup>ノ</sup>坐<sup>ル</sup>以上<sup>ニ</sup>  
何<sup>ノ</sup>郡<sup>ノ</sup>何<sup>ノ</sup>村<sup>ノ</sup>

年号月日

名主 誰<sup>レ</sup>印  
組頭 誰<sup>レ</sup>印

何<sup>ノ</sup>誰<sup>レ</sup>存<sup>ル</sup>  
ハ後<sup>ノ</sup>所<sup>ニ</sup>

誰<sup>レ</sup>忤<sup>ル</sup> 誰<sup>レ</sup>印  
何<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>弟<sup>ノ</sup> 誰<sup>レ</sup>印

○檢使手代へ取<sup>ル</sup>寺院并<sup>ニ</sup>村役人<sup>ノ</sup>證文<sup>ノ</sup>の事  
差上申證文<sup>ノ</sup>の事

一前<sup>ニ</sup>又<sup>ニ</sup>注進書<sup>ト</sup>同<sup>シ</sup>○病死仕<sup>ル</sup>者<sup>ノ</sup>忤<sup>ル</sup>誰<sup>レ</sup>本人同然<sup>ノ</sup>者<sup>ニ</sup>坐<sup>ル</sup>故死骸<sup>ノ</sup>  
何<sup>ノ</sup>誰<sup>レ</sup>存<sup>ル</sup> 誰<sup>レ</sup>印

塩誥<sup>ト</sup>仰<sup>ル</sup>せ付<sup>ル</sup>ら<sup>レ</sup>名<sup>ノ</sup>主<sup>ノ</sup>組頭<sup>并</sup>親類<sup>五人</sup>組<sup>拙</sup>僧<sup>立</sup>合<sup>ノ</sup>上<sup>預</sup>置<sup>申</sup>上<sup>ル</sup>重<sup>テ</sup>  
仰<sup>ル</sup>せ渡<sup>さ</sup>れ<sup>次</sup>弟<sup>取</sup>置<sup>仕</sup>る<sup>べ</sup>く<sup>ハ</sup>為<sup>後</sup>日<sup>仍</sup>て<sup>如</sup>件<sup>ト</sup>

年号月日

何<sup>ノ</sup>寺<sup>ノ</sup>印

何<sup>ノ</sup>誰<sup>レ</sup>存<sup>ル</sup>手<sup>代</sup>  
何<sup>ノ</sup>誰<sup>レ</sup>殿

差上申證文<sup>ノ</sup>の事

一前<sup>ニ</sup>又<sup>ニ</sup>右<sup>ニ</sup>同<sup>断</sup>○取置<sup>ル</sup>者<sup>ノ</sup>忤<sup>ル</sup>本人同然<sup>ノ</sup>者<sup>ニ</sup>坐<sup>ル</sup>又付何方<sup>ニ</sup>奉行所<sup>ニ</sup>移へ仰せ遣<sup>ハ</sup>り且那寺<sup>ニ</sup>  
処<sup>死</sup>骸<sup>改</sup>の上<sup>塩</sup>誥<sup>仰</sup>せ付<sup>ル</sup>ら<sup>レ</sup>拙<sup>者</sup>共<sup>ハ</sup>預<sup>め</sup>置<sup>申</sup>上<sup>ル</sup>重<sup>テ</sup>  
此<sup>者</sup>何<sup>ノ</sup>国<sup>何</sup>郡<sup>何</sup>村<sup>且</sup>那<sup>又</sup>務<sup>を</sup>坐<sup>る</sup>故死骸<sup>ノ</sup>番人付置<sup>ル</sup>注進申上<sup>ル</sup>  
坐<sup>る</sup>故死骸<sup>ノ</sup>番人付置<sup>ル</sup>注進申上<sup>ル</sup>  
連判<sup>ノ</sup>者<sup>共</sup>何<sup>ノ</sup>分<sup>ノ</sup>曲<sup>事</sup>も<sup>仰</sup>せ付<sup>ら</sup>る<sup>べ</sup>く<sup>ハ</sup>為<sup>後</sup>日<sup>証</sup>文<sup>仍</sup>て<sup>如</sup>件<sup>ト</sup>

年号月日

何郡何村

誰倅

内人誰

誰

五人組誰

組頭誰

名主誰

印 印 印 印 印

何の誰倅手代

何の誰殿

○代官より切支丹奉行へ注進書の事

覚

一何國何郡何村古切支丹何嫡男本人同然誰  
右の者拙者代官所何國何郡何村百姓より罷在の処当何月幾日何方より  
病死仕候に付早速檢使差遣し死骸お改の処別条に坐候小間塩詰

一何國何郡何村古切支丹誰嫡男本人同然誰

年号月日

東京何の誰印

宛所 切支丹奉行兩名殿付より  
差出候方の名を先づ

覚

一何國何郡何村古切支丹誰嫡男本人同然誰  
前又右同断○別条ある小間塩詰に致し置註進申上の処死骸取置せり  
格差因に付何月幾日且那寺何郡何村何宗何寺へ土葬取置申し  
右の注進の爲此の如く坐候以上

年号月日

何の誰判

宛所右同断 右何生し兩通認め兩方へ出  
るに先づ遣し小方先づ認  
○享保十八年切支丹奉行用人へ問合の趣の事



一 右九右衛門獨身者トシノモトの事是ハ九右衛門一人ノ代官類族断絶ノ訣別紙又  
 如何仕イカるべく裁ナの事書付右ノ者死夫ノ書付又添差出しノ旨又トノ事  
 一 右九右衛門獨身者トシノモト付田畑山林屋敷ツヘタサリヤレキ所持仕シヨチらる借地致イタし立家トコロハ所  
 の者立取シテせ住居致ヤキせ置モラトハ尤も少シヨダく所持シヨチの衣類農具イレイノカ有ア之ノ右ハ菩  
 提寺ツカへ遣ウチし度シキヨ由ヨ所ノ者チ願ガ申ス事右ノ儀此方ヨリ構多之ニ付所ノ者  
 其ス通ス申ス付然るベくイハ  
 一 二季キ所トケ届セツの節セツ申ス上ノ多ク裁ヤの事是ハ類族病死ノ節ハ二季届ノ旨ヨリ然  
 同ナ何ナ時ナ多ク共ニ仰セ達セらレル然るベくイハ段ノ換ノ様ノ有リ之ノ事是共代官所替の時の為且安堵の為ヨリ

東京 大月忠興 補訂

校正地方落穂集卷之十三畢



校正地方落穂集卷之十四

目錄

- 一口論コウロン檢使願書認方ケンシチカヒシヨレクノメカク
- 一行倒エキダフ是レニシ人ニ有リ之ノ節セツ檢使願書認方ケンシチカヒシヨレクノメカク
- 一家作カカク願書認方スモノ
- 相アヒ様願書認方スモノ
- 奉行所ブギヤク掛ケの処トコロ宿預ヤドアツケ成ナリし節セツ地頭チトウ文配ブンバイへノ届書認方トケレヨ
- 吟味ギンミ中病氣ナカウヂ届ケの事チカヒシヨレクノメカク
- 定免切替テイケンキリカヘ請證シヨウシ又認方マシ〇定免切替願書認方テイケンキリカヘシヨウシマシ
- 目安メヤス初判請書認方ハツパンシヨウシ
- 初ハツメて公事クシ合アイ成ナリ評定ヘイテイ所請シヨウ又掛ケりへ出デし節セツ差上サレガる差出サレガし認方シヨウシ

一 評定所より差上る請書認方

一 過料錢上納書認方

一 片消口差出し認方

一 病氣より出牢宿預申付らし節掛り役人へ差上る請書認方

一 由悲願書認方 ○ 評定所より於て地所見分申付らし節請書認方

一 差添人代り合願書認方

一 貸附役所より村方引請未納證文案又受取書認方

一 先觸認方

一 内消口證文認方

一 宿替願書認方

一 牢屋見舞願書認方 ○ 吟味中猶豫願書認方

一 吟味中掛合の上内府致度連印を以猶豫願せし処示行届り破談

と成し節の届認方

一 吟味中預人并手鎖の旅人月代川願認方 ○ 預手鎖人有之節請書認方

一 腰掛へ双方出し節翌日申呼出し請書認方

一 村々へ申尋の儀有之廻状より觸達しの節否請書認方

一 差紙頂戴の差日より延着の節差上る書面認方

一 訴訟人は判頂戴相手銘々へ相附差日以前出府着届書認方

一 奉行より取村申付置をし処猶又日限を付出府届書認方

一 改印届書認方

一 吟味中引合人申呼出し差紙頂戴着届認方 ○ 同代引請の節書面認方

一 相手取らしは判頂戴差日以前着届認方

- 一 同代引請し節同様返答書へ相添へ差出と書面認方
- 一 判附らし節相手方より訴詔方へ遣と拜見書認方
- 一 吟味中一同連印し日延願書認方○同破談届書認方
- 一 吟味中改村願の事
- 一 吟味中欠落せし者日限尋申付られ日限と相成訴書認方
- 一 平常欠落者訴書認方
- 一 出火届書認方
- 一 盗賊と逢し節訴書認方

校正地方落穂集卷之十四目錄 畢

校正地方落穂集卷之十四

信陽 東條耕子 截 枝

○口論檢使願書認方

乍恐以書付奉願上以下四ヶ条端

一 何國何郡何村誰親類誰申上奉り右誰後用事有之幾日何時罷出外途イシカナトキ子リテ中何村誰と口論又及び何所々へ何程の疵と被り外又付早速醫師相掛手當仕得共苦痛強く存命斗り難く存じ奉り外又付此段訴へ申上奉り何卒慈悲と以て早速檢使下し置き外格奉願上以上

年号月日

何国何郡何村 當人誰親類 誰印

宛所

組合 誰印  
村役人 誰印

○行倒を死人有之節檢使願書認方

端書上 又同じ

一何國何郡何村名主年寄百姓代申上奉りナマシトシヨリ當村字何と申所ナシは年齒幾才位タビと相見ミへ非百姓ヒヤクシヤ体テ々々男オトコ行倒ユキタラを相果罷在ハテアカリアリ當月幾日誰見付相知せミテ小コ又マタ付早速罷越見届ミツケ外ソト衣類何品イルイと着キし所持シヨクの品何ナニく有之アリ全マツクく自分ジブンと行倒ユキタラお果ハテいと相見ミへ非間マ此段コノセグ申訴ウツタへ奉申上オウシヨ何卒ナニトツ慈悲ジヒを以て早速サツに檢使下ケンシゲし置オキを非格奉願上カクホウガンジョウ以上

何州何郡何村

年号月日

見付人 誰印  
百姓 誰印

宛所

年寄 誰印  
名主 誰印

○家作願書認方

端書上 又同じ

一新規家作

豎何同 横何同

一箇所

一物置所

日 日 日 日

一箇所

此外建物巨細又記す

右ハ何國何郡何村誰奉申上シヨウガハ私儀所持高何十何石所持仕り家内何人暮グし又坐イ外ソト合アヒ般何と申者シヨウの所持畑シヨクの内何畝何歩の場所へ書面の通り新規家作致し令家致シヨクを非百姓お續仕りシヨクの格致カクシし度之ヨク依ヨクて村内シヨクお糺シヨクし又ハ共故障コトワホハ坐イ外ソト然シヨクる上と右何畝歩の場所ハお当オウの屋敷物成シヨク市上納仕り農業の外商アキアハ仕向シヨクトハ間何卒ナニトツ慈悲ジヒを以て此改キ申内納成シヨク下し置オキを非格奉願上カクホウガンジョウ以上

年号月日

何國何郡何村

願人 誰  
親類 誰  
組頭 誰  
名主 誰  
連印

宛所

○相撲願書認方端書上

一何國何郡何村名主年寄百姓代奉申上此度相撲年寄何の誰何方邊よ  
と相撲罷越し飯掛りの由り兼て当村鎮守何神へ心願して  
年来相撲奉納仕度心掛慶幸好折柄付同人弟子共を以て来る幾日  
より晴天幾日の間相撲興行仕り存心勿論木戸銭を取り又ハ花札  
ホ配り儀決して坐あ間何卒慈悲を以て同成下し  
置を存願上以上

年号月日

何國何郡何村

名主 誰  
年寄 誰  
百姓代 誰  
相撲年寄 誰  
連印

宛所

○奉行所掛りの処宿預け申付ら節地頭支配への届書認方

乍恐以書付奉申上

一何町何丁目誰申上奉り何州何郡何村何出入一件の者共幾日当由  
役所様より何奉行何の誰様へ差出しお成の処同人様一通り  
由吟味の上猶又苗後何の誰様由吟味あり私方止宿罷在  
誰様由吟味中私方へ宿預け仰せ付られ付則右由請書差上る処  
追々由吟味有之べき旨を引取仰せ付らる之を依て此段届奉申上

以上

年号月日

宛所

○吟味中病氣届認方端書江

右宿  
何町何丁目  
何屋  
誰印

右宿誰申上奉り右誰儀昨我日付日延奉願上則今日罷出掛合の上始末届申上為く外昨夜中より何病より煩差詰取則罷在届又罷出儀もお成兼い付是非あり私より早段届奉申上尤も少くても快方又趣い早速連届申上べく間右西園下し置生小招奉願上以上

年号月日

宛所

○市定免切替市請証文認方  
差上申市請証文事

当何年より何年迄何々年市定免  
一高 何程  
此永 何程

右と当村市取箇切替市定免の儀奉願上外再應市吟味の上書面の米

永はと以て当何年より何年迄何々年市定免仰せ付らるる旨仰せ渡さ  
身一同有難く奉存り尤三分以上の損毛は相當らばる節ハ納辨仕申候  
見入奉願はじく且畑方の儀ハ一國一郡ハ響き程の損毛ハ格別候

右宿  
何町何丁目  
何屋  
誰印

何國何郡  
何村

令皆損同様の凶作より坐小共容易より引方成し下りける間百姓共  
兼てお心得耕作仕るべく昔且又山崩せし其外の損地有之れ共小前持  
高十分一は相當らざるかハ此定免年季中ハ引方お立申はる段仰  
せ渡され逸く承知畏り奉りて年貢入納方の儀を市割賦通るお納め  
十二月十日限り此度皆納て仕り  
右の通り小前百姓連一同承知奉畏り之より依て連印證又差上申処如件

年号月日

宛所

何國何郡何村

百姓代 誰  
組頭 誰  
名主 誰  
連印

○此定面切替願書認方

乍恐以書付奉願上

何年より何年迄何々年季此定免  
一米何程  
外米何程  
切替増

此上納過

右ハ何國何郡何村名主年寄百姓代申上奉りて當時田方此年貢の儀去  
何年より何年迄何々年季此定免仰せ付置き此処当何年季明は付増米  
を以て跡申請て仕音先達と仰せ觸らる畏り奉りて然る処一体土地惡  
敷場所殊更近年不作旁々小前の者共困窮お暮り是迄の上納過りて  
出情仕漸く取續き此處在り候は付何卒此慈悲を以て前書増米を此上  
何年迄何々年此定免跡申請仰せ付らる下し置き此招奉願上以上

年号月日

宛所

何國何郡何村

名主 誰  
年寄 誰  
百姓代 誰  
連印

○目安初判請書認方  
内請

何の出入

何之誰知行所  
何國何郡何村

名主誰の組頭百姓カ

何之誰知行所

何國何郡何村

何の相手誰

外何人

右の通目安差上ハ何月哉日ハ差日ハ尊判頂戴仰せ付ラ有誰仕合  
奉存ハ然上ハ飯村の上相手銘々ハ相附拜見證文を取リハ差日以前  
着ハ届申上ベキ旨仰せ渡され承知仕リ奉畏ハ但し相手の者其即返答  
書ハ控ハ二通宛持参罷出ベキ様相達し申上ベキ旨是亦仰せ渡され

奉畏ハ之ニ依テ内請印形差上申処如件

年号月日

内奉行所様

○初テ公文合ニ成評定所請掛リハ罷出し節差上ハ差出し認方  
初而公事

何之誰様掛リ  
何の出入

何之誰領分

何國何郡何村

誰の誰

何之誰知行所

何國何郡何村

相手誰

右  
訴説 誰印  
差添人 誰印

右宿  
何町何丁目 何屋 誰印



右訴訟方宿

何町何丁目

何屋

同相手方宿

何町何丁目

何屋

月日

右の通り認し一枚外掛りへの名前と書入るべしと差添人の名前  
前と書入しと一枚都て二通差出をあり左とねば掛りへの名前書入  
し方へを朱引りと下る多り則是と即日訴訟方の者持参して評定所  
へ差上帳面を付し上又掛りへ其段の届申上ることをあり但し差出おし  
呈しを申上る

○評定所より差上る請書認方

差上申一札の事

一私共出入地所の儀決し難く付地改申手附申代中差違きわ間場  
所又於て我意立と吟味と受都て申手附申代衆の差因違替仕る間  
敷の事

一地改申吟味中申分と立申奉行所へ差越し願出の者有之共決して申  
取上の坐あゝの事

一市吟味を証据次第道理次第と相分け依怙其負ハ多之事又間手と  
廻し頼ケ間敷儀仕るゆじく若し賄賂金差出し小節ハ申置仰せ付  
らまゝの間此度お慎と申へき音且申手附申代中召連らまゝ小者衆ふ  
とへ聊々の品送りて小同格申仕置よお成の支勿論小者衆より無心  
ケ間敷儀申掛らまゝ早々其筋へ申達し申奉行所へ申上べの事  
一地改申吟味中農業怠らぬ地改の場所へ無益の者罷出ば尤も不用の人



誰

○病氣して出牢の上宿預け申付らるし節牢屋敷掛り役人へ差上

小請書認方

差上申小請書の事

一何の誰領分何國何郡何村誰儀何之誰格サマカ掛りして入牢仰せ付置ユエヨヲし  
処右誰儀病氣ベキ付私方へ宿ヤド預け仰せ付らるタシカ愠ウツク預り奉り之ノ依  
て小請印形差上申処如件

何町何丁目

江戸宿

誰店

誰印

月日

何之誰様組

何之誰様

○小慈非願書認方

乍恐以書付小慈悲願奉申上

一何國何郡何村百姓誰親類誰組合誰奉申上カ右誰儀何村誰と口論の上  
疾負キムラハせし付吟味中入牢仰せ付らるレ同奉恐入レ右誰儀身分令般  
の吟味筋ハ奉存ホらるレへ共平日實体マシとは是レ由レて不法ノの儀お働カき  
事コトも承マり及ツ別ニ極老ノのノ有リ之ノ朝暮悲歎ノ沈ミと罷在リ改不便ニ至  
極ク奉存ホり同何卒格別ノのレ憐愍ヲ以て此上ノのレ慈悲偏ニ奉願上レ以  
上

何之誰知行所

何國何郡何村

誰親類

組合

誰

誰

誰印

誰印

年号月日

宛所

○評定所より於て地所見分申付らばし節請書認方  
是を前条評定所より於て差上り請書認方と振合同し故之と畧を

○差添人代り合願書認方

下恐以書付奉願上り

一何國何郡何村百姓誰差添人紹駐り誰奉申上り私候老衰の母有之持  
病し是を打臥罷在り此母節重体にお成存命の程も覺束あり存生  
中對面はし度段お歎き越り又村飯村の上兼用介抱手当お仕な存し奉  
小之より依て代り合とて同役誰出府仕り間何卒は慈悲を以て右誰へ  
代り合仰せ付らば下し置り候奉願上り以上

何之誰知行所

何國何郡何村

代合願人 誰 印

何ノ何月

分引受 誰 印

宛所

○貸附所後所より村方引受未納證文案文請取書認方

差上申請書の事

地頭何之誰拜借金返納方別紙文案文一通渡し遊ハきハ儘受取奉  
り然る上ハ米も幾日本紙お認め右文案文添差上奉るぐり之より依  
て申請書差上申処如件

何誰知行所

何國何郡何村

後人惣代 名主 誰 印

年号月日

由貸附 由後所

○先觸認方

覚

一人足 一人

一輕尻 一匹

右を要用し付明幾日曉六時何方より出立し何州何迄罷越し何日前書  
の入馬川に渡し舟に遅滞あり差出し肝煎給つるべく尤も定  
賃銭お拂ひ罷通り申さべく

月日

何之誰内

何之誰

右宿

問屋中

是より奥へ泊り宿と順に記を

○内濟口證文認方

差上申内濟口證文の事

一何國何郡何村誰奉申上り私より何國何郡何村誰外何人相手取賃金滞  
出入申立当り奉行所招へ出訴奉り当幾日差日の由尊判頂戴お附り  
処相手の内何國何郡何村誰外何人の者より滞金高何程の内何程期月  
證文を取り残金何程と何くの積りよ致し申分あり熟談内濟仕偏り  
威光と有難く仕合ふ奉存り且何國何郡何村誰滞金何程未だ相濟  
申内分り同此分り吟味奉願上り之より依り内濟口證文差上申処如件

何誰知行所

何國何郡何村

誰印

年号月日

宛所

○宿替願認方

乍恐以書付奉願上レ

一何國何郡何村誰奉申上レ私儀是近何町何丁目何屋誰方レ止宿罷在レ此度何町誰方へ宿替仕レ及レ兩宿掛合レ及レ以レ此故障之レ間何卒レ正慈悲レ以レ願レの通り仰付レ下レ置レ以レ將奉願上レ以上

年号月日

何國何郡何村

願人 誰印  
差添人 誰印

兩宿連印

宛所

○牢屋見廻願書認方レ端書上レ

一半紙 二帖 一手掛 一筋 一錢 何程

一食物類 何品 一幾品

右と先達て入牢仰せ付らレ誰方へ書面の品を送り遣し度奉存レ間

何卒正慈悲レ以レて右誰方へお届レ以レ將仰付らレ下レ置レ以レ將奉願上レ以上

年号月日

何國何郡何村

願人 誰印  
差添人 誰印

右宿 何町何丁目

誰印

宛所 宛名を時の掛り役  
人の名を認り

○吟味中猶豫願書認方レ端書上レ

一何國何郡何村一件の者共奉申上レ私共出入当時吟味中レ市坐レ此掛合の上レ熟談内済仕レ度奉存レ間何卒正慈悲レ以レて来る幾日近レ市吟味市猶豫成レ下レ置レ以レ將一同連印レ以レて奉願上レ以上

何誰領分  
何國何郡何村

月日

訴交 誰印

同

相手方 誰印

同

引合人 誰印

宛所

○吟味中掛合の上内府仕度一同連印を以て猶豫願致し掛合及び  
処示談行届より破談届認方

乍恐以書付奉申上

一何國何郡何村一件の者共奉申上ハ私共出入ハ吟味中ニ由坐ハ処掛合  
の上熟談仕度奉存ハ付昨歳日由ハ吟味ハ猶豫奉願上精々掛合  
及ハ共行届申上ハ是非ハ破談届奉申上以上

月日

訴答并ハ  
引合人 連印

宛所

○吟味中預入并ニ手鎖申付置キハ旅人月代ハ願書認方

乍恐以書付奉願上

何國何郡何村 誰

右の者候ハ吟味中手鎖の上ハ私共ハ預け仰せ付置キハ付此度お慎  
ニ置セハ処右誰候月代長髪ハ罷成眼病ノ難候至極仕上私共ハ相  
歎キハ間何卒ハ慈悲を以て月代ハ仰せ付ら下し置キハ招偏ニ奉願  
上ハ右願の通ハ同済成下し置キハ有難く仕合ニ奉存以上

月日

右誰差添人 誰印

右宿 何町何丁目

誰印

宛所

○右預け手鎖人有之節請書認方

差上申中請書の事

何國何郡何村 誰

右の者儀在吟味中私方へ宿預け仰せ付らる承知奉畏然る上ハ此  
度お慎せ置立用の節ハ早速召連罷出へくハ之ハ依て申請書差上申ハ  
処如件

月日

宛所

○腰掛へ双方罷出し節翌日申呼出し請書認方 但し是ハ訴訟方  
宿中認へき事

申請

右宿

何町何丁目 誰 印

一何國何郡何村一件の者共明裁日召連罷出べき旨仰せ付らる承知畏  
奉然上ハ右制限遅滞ある召連罷出べくハ之ハ依て申請書差上申  
処如件

月日

宛所

訴訟方宿  
相手方宿 一同連名印  
引合人宿

○村ニへ申尋の儀有之廻状と觸達の節否申請書認方

乍恐以書付奉申上ハ

一何國何郡何村名主誰奉申上ハ申觸の趣何々の者取調ベハ共当村方  
右体の者各申上ハ之ハ依て此段申奉申上ハ以上

月日

宛所

何國何郡何村  
名主 誰 印



○市差紙頂戴は差日より延着の節差上り書面認方<sup>端書上</sup>  
一何國何郡何村誰奉申上り私儀は尋の儀有之早く罷出べき旨は差紙頂戴拜見承知奉畏小則裁日出立仕り処途中より於て持病の何く差起り漸く昨日夜何時江戸着仕則市届奉申上り右延着の段市有免成し下し置

年号月日

宛所

何誰知行所  
何國何郡何村

何く誰誰  
差添人誰印

○訴訟人由尊判頂戴相手銘へお附は差日以前出府着届認方<sup>端書</sup>  
一何國何郡何村何誰奉申上り私より何方何誰外何人相手取何月中何訴

同上

訟奉申上り何月幾日の由尊判頂戴相手銘へ相附拜見証文之を取  
則出府仕り間此段着市届奉申上り以上

年号月日

宛所

何國何郡何村  
訴訟人誰印

○奉行所より飯村申付置きし処又小日限は付し出府着届認方<sup>端書</sup>  
一何國何郡何村何誰奉申上り私より何方誰外何人へお掛り何の出入り吟味中より坐り處舊冬月迫り及び小に付今幾日ゆで先飯村仰せ付らるる處則市日限は付し出府仕り間此段着市届奉申上り以上

年号月日

宛所

何誰知行所  
何國何郡何村  
何く誰誰  
差添人誰印



年号月日

宛所

代兼 何々 誰印

○相手取らき申尊判頂戴の差日以前着届認方端書上

一何國何郡何村誰奉申上コトバシ今般何方誰より私へお掛り何々出入の旨申立当申役所様へ出訴奉り何日申差日の申尊判頂戴仕お附ツケ付拜見承知奉畏オモヒ則出府仕ス同此段申届奉申上トク以上

年号月日

宛所

右同断 何々 誰印

○右同断代引請し節同様返答書へお添へ差出と書面認方端書上一何國何郡何村誰煩ワザシは付代兼誰奉申上コトバシ今般何方誰より私共へお掛り何々出入の旨申立当申役所様へ出訴奉り幾日申差日の申尊判頂戴

相附ツケの付誰儀も一同罷出イカリなるは何々の病氣ヤクキを此節別々差重サシカり罷出イカリ難き旨お歎ウタガまひは付余儀ヨギ私引請代ヒキヨクとして罷出イカリは尤も右誰へ申尋ウツチの儀を私より聊々相違ワカなく申上ウタガなるは同何卒申慈悲ジヒを以て此段申同済成ツクし下し置ツク且格奉願上ツク以上

右同断

誰煩は付 代兼 誰印

年号月日

宛所

○申尊判附ツケはし節相手方より訴訟方へ差遣を拜見書認方

一札之事

一今般貴殿より我へお掛り何々の出入何の誰様へ申訴証ふされ何月幾日申差日の申尊判頂戴仕お附ツケらば承知畏り奉り何日申差日幾日以前

何月幾日銘返書控も二通ツ、右市掛りの役所へ着届申上べき  
旨仰せ渡され、趣市達しふされ是亦承知仕、且市判物の浅ハ墨付汚  
小市坐多、預り方、預り書入、之に依て市請印形差出申処如件

年号月日

何国何郡何村

五人組 誰 誰 誰  
名主 誰 連印

誰 殿

○吟味中一同連印、日延願書認方

是と前条吟味中猶豫願と認方同様ある故之と畧と

○右同漸破談届書認方

是と前条吟味中内消仕は猶豫奉願、外行届、ハ破談、ハ成、ハ届と  
同格ある故之と畧と

○吟味中飯村願書認方

乍恐以書付奉願上

一何國何郡何村誰奉申上、私儀誰より誰へお掛り、一件又付古出さる  
此吟味中、市坐、外老、衰の、母、有之、由、是、迄、打、卧、罷、居、外、此、節、至  
り、追々、差、重り、寂、早、老、年、の、上、の、候、存、命、の、程、も、覺、束、多、く、外、間、存、生、中、今  
一度、對、面、致、し、夜、音、お、歎、き、越、外、付、飯、村、の、上、葉、用、介、抱、手、当、ホ、仕、及、奉、存  
外、間、何、卒、由、慈、悲、を、以、て、一、先、飯、村、仰、せ、付、ら、せ、下、し、置、き、外、存、奉、願、上、外、勿  
論、此、上、外、用、の、後、ハ、何、時、成、とも、早、速、罷、出、外、間、此、段、市、内、消、成、し、下、し、置、き  
外、ソ、有、難、き、仕、合、は、奉、存、外、上

年号月日

右同漸

誰 印

宛所

○吟味中欠落致せし者日限尋申付置まひ日限又成訴書認方

乍恐以書付此訴奉申上

何誰支配所

何国何郡何村

誰

右の者欠落仕り行方お知申上候ハ付其段此訴奉申上ハ処追々尋方仰せ付らる猶亦先月幾日より昨幾日ハ三十日限り尋方仰せ付らる奉畏心当の所々油断なくお尋候ハ共今以て行方お知申上候最早日限又付此段余義多く此訴奉申上以上

何誰支配所

何国何郡何村

誰印

年号月日

宛所

○常体欠落訴書認方 端書上

何国何郡何村

誰

右の者何親ノ誰并親類組合村役人一同奉申上ハ前書誰候当何月何日不図家出仕り立候り申上候ハ向心当りの場丹精々相尋候ハ共行方お知申上候ハ何故家出仕候ハ裁心当りも之右ハ付出入掛合ホ申上候ハ共出先於て何格の儀出来候ハ斗り難く安心仕らば向此段此訴奉申上以上

右同断

右親ノ誰

親類ノ誰印

名主組合連印

宛所

○失火届書認方 端書上

一 燒失家 竪裁程  
一 物置所 日

此外燒失せし箇  
所巨細を記す

何國何郡何村 誰

右者何國何郡何村名主年寄百姓代一同奉申上以前書誰儀家内幾人  
暮より坐臥然る処当月幾日夜何時頃厩廬裏の灰能く去めし居宅燒き  
物置所へ取置所処火消へ残り有之れ我同夜何時頃右場所より燃立小  
と誰見付立所は付村内の者其外馳付油断多防ぎへども折節風  
烈しく居宅物置所其外も残らば燒失仕尤も村内高札場ハ勿論外  
類燒家人馬怪我ホ一切由坐あく外且何せも怪しき風因ホ坐あく全  
く手過ちよお遠き之前書誰儀ハ恐入村内菩提所何院へ入寺仕お慎  
と罷在り間此段由訴奉申上以上

年号月日

右同断  
百姓代 誰

年号月日  
宛所

年寄 誰連印  
名主 誰

○盜賊に遭し節訴書認方 端書上 同

一 何品 幾箇

一 何品 幾箇

右者何國何郡何村誰奉申上私家内何人暮しと農業の間何渡世仕  
罷在り然る処当月幾日夕飯給仕廻夫も戸締りホ致し尤も錠前も心付  
む家内一同卧り小夜何時頃と覺へ便所へ參るべくと起出見外へ  
を襲う入口の戸明有之れ付不審に存家内穿索仕 処右の品々お見  
へ申内全く右の場所より盜賊忍入盜去り儀と奉存り早速所お  
尋小へ共怪敷風因手掛りホ一切由坐あく外間此段由訴奉申上以上



